

2016年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）総会 議事要旨

日 程：2017年3月8日（水） 13:30～16:00

会 場：一橋大学一橋講堂中会議場（学術総合センター）

会員機関数：444 機関（2017年2月24日現在）

出席機関数：359 機関（うち、委任状による出席 240 機関）

出席者数：139 名

議 事：

- 1) 開会挨拶
- 2) 会則規程について (資料 1)
- 3) 入会状況について
- 4) 2017年度の会長選出について
- 5) 2017年度の監事選出について
- 6) 2017年度の運営委員会委員について (資料 2)
- 7) 2016年度の機関リポジトリ推進委員会作業部会及びタスクフォース活動報告について (資料 3)
- 8) 2017年度の事業計画及び体制について (資料 4)
- 9) 2017年度の作業部会、タスクフォース活動計画について (資料 5)
- 10) 2017年度予算について (資料 6)
- 11) その他

資料：

- 資料 1-1) オープンアクセスリポジトリ推進協会会則
- 資料 1-2) オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会規程
- 資料 1-3) オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程
- 資料 2) 2017年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）運営委員会委員（案）
- 資料 3) 2016年度機関リポジトリ推進委員会作業部会及びタスクフォースの活動（報告）
- 資料 4) 2017年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）事業計画（案）
- 資料 5) 2017年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）作業部会・タスクフォース活動計画（案）
- 資料 6) 2017年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）予算（案）

参考資料 1) 2016 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR) 総会出席者
名簿

議事

1) 開会挨拶

富田運営委員会委員長（北海道大学附属図書館事務部長）より、総会の開会要件について確認があり、総会が成立していることから開会宣言が行われた。

深澤会長（早稲田大学図書館長）より開会挨拶があった。

2) 会則規程について

富田運営委員会委員長より、資料 1-1 から 1-3 について、2016 年 7 月の設立総会時に事務局預かりとなった箇所を中心に説明があった。

運営委員会規程については、第 13 回大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議において、機関リポジトリ推進委員会が JPCOAR 運営委員会に移行することが承認されたことにより、附則「第 3 条の規程に関わらず、当面は大学図書館と国立情報学研究所との連携協力推進会議の下に設置された機関リポジトリ推進委員会をもって運営委員会に代える。」の部分を削除することが説明された。

審議の結果、異議なく承認された。

3) 入会状況について

細川運営委員会委員（国立情報学研究所学術コンテンツ課長）より、2017 年 2 月 24 日時点の入会状況について報告があった。

4) 2017 年度の会長選出について

会則第 6 条にもとづき、会長の選出が行われた。立候補及び推薦がなかったため、富田運営委員会委員長から、現会長の早稲田大学の継続について提案があった。

審議の結果、異議なく承認された。

5) 2017 年度の監事選出について

会則第 7 条にもとづき、監事の選出が行われた。立候補及び推薦がなかったため、深澤会長から、現監事の信州大学、立教大学の継続について提案があった。

審議の結果、異議なく承認された。

6) 2017 年度の運営委員会委員について

富田運営委員会委員長から、運営委員会規程第 3 条にもとづき、資料 2 について説明があった。今後、4 月の人事異動等により、運営委員の構成について承認いただき、人事異動

の結果を踏まえて、運営委員会で再度名簿案を作成し、臨時総会（メール）にて承認を得た
いと提案があった。

審議の結果、異議なく承認された。

7) 2016年度の機関リポジトリ推進委員会作業部会及びタスクフォースの活動について

尾城運営委員会委員（東京大学附属図書館事務部長）より、資料3について、報告があっ
た。このことについて次の質問・意見があった。

・研究データトレーニングツールではMOOC化を予定しているとのことだが、どこで提供
されるのか。

→ gacco (JMOOC) で提供する予定である。また、教材は大部であるため、研修等
で活用していく事を検討中である。

・研究データトレーニングツールでは、教員にも感心を持って欲しいとのことであるが具体
的にはどのようなことか。

→ 助成機関等が助成の要件として、データ管理計画書の策定を求めようになってき
ている。この計画書の作成の仕方なども教材に含まれているので、教員にもぜひご覧
いただきたい。

8) 2017年度の事業計画及び体制について

江川運営委員会委員（筑波大学学術情報部長）より、資料4について、説明があった。ま
た、運営委員会規程では、作業部会を設置できると規定されているが、詳細な設置規程整備
されていないため、作業部会設置規程を制定したいとの提案があった。

審議の結果、異議なく承認された。

9) 2017年度の作業部会、タスクフォースの活動計画について

高橋運営委員会委員（千葉大学附属図書館学術コンテンツ課長）より、資料5について、
説明があった。

このことについて、次の質問・意見があった。

・2016年度の機関リポジトリ推進委員会の活動報告では、SCPJの移行について述べられて
いたが、2017年度の活動計画には含まれていないようである。今後検討されるのか。

→ SCPJについては、運営委員会と渉外担当を中心に検討することになると思う。その
結果として、SCPJを主題としたタスクフォースの立ち上げも考えている。

・本総会で説明の際に投影したスライドを机上配布でも良いので配布して欲しい。

→ スライドについては、後日、JPCOAR ウェブサイトで公開する予定である。

・COARとの連携については、DRFから引き継ぐことになるのか。

→ これまで、DRFと機関リポジトリ推進委員会が別々に参加していたが、JPCOARと
してまとめてCOARに参加することで、COARとも調整済みである。

・作業部会員については、作業部会に参加しつつ、タスクフォースにも参加するということがか。

→ 運営委員会内でも協議中であるが、基本的には、作業部会、タスクフォースのうち、どこか一つに所属して活動に注力できるよう配慮する予定である。

・作業部会、タスクフォースは何名程度を想定しているのか。

→ これらの活動を展開していくためには、活動規模に応じた人数が必要になる。そのため何名という想定はなく、広く募集したいと考えている。

・2016年度機関リポジトリ推進委員会作業部会及びタスクフォースの活動報告では、デジタル・ヒューマニティとして、継続的な維持管理が困難な人社系データベースの救済策について述べられていたが、これは、研究データタスクフォースに引き継がれるということでしょうか。ぜひとも継続して活動して欲しい。

→ 2016度はどの程度のデータベースがあるのかといった調査で終わってしまったため、2017年度以降で、実際に機関リポジトリにデータを移行するなど救済となるような活動を行いたいと考えている。

審議の結果、異議なく承認された。

10) 2017年度予算について

山本運営委員会委員（琉球大学附属図書館事務部長）より、資料6について、JPCOAR基本会費について説明があった。また、細川運営委員会委員より、JAIRO Cloud 利用料金について説明があった。また、資料6については、下記の通り訂正があった。

<収入の部>

1.会費 備考欄

会費区分 A→C

会費区分 C→A

審議の結果、異議なく承認された。

2016年度 JPCOAR 総会の資料については、JPCOAR ウェブサイトにて後日公開予定である。

以上